**ＷＣＳ用イネの品種特性（病害への抵抗性）**

**１　はじめに**

　　ＷＣＳ用イネ栽培は、生産コスト低減のため、防除を最小限とする必要がある。品種の持つ病害~~虫~~抵抗性を理解し、栽培する地域で問題となっている病害に応じて品種を選択する。防除を行う際は、ＷＣＳ用イネに使用可能な農薬に制限があるため、留意する。また、出穂期以降の防除は原則として行わないようにする。

**２　病害に対する品種特性一覧**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 品種名 | 早晩性2) | 抵抗性 | | | |
| いもち病1) | | 白葉枯病2) | 縞葉枯病2) |
| 真性抵抗性  （抵抗性遺伝子） | 葉いもちへの  ほ場抵抗性 |
| たちすずか | 晩生 | ある | 弱 | 強 | 罹病性 |
| たちあやか | 中生 | ある | 不明 | 中 | 罹病性 |
| つきあやか | 中生 | ある | 不明 | 中 | 抵抗性 |
| つきすずか | 晩生 | ある | 不明 | 強 | 抵抗性 |
| つきことか | 極晩生 | ある | 弱 | やや強 | 抵抗性 |

1)稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第７版<令和２年度版>(2020)(一社)日本草地畜産種子協会

2)令和７年播種用「飼料用イネの栽培と品種特性」(2024) (一社)日本草地畜産種子協会

**３　主要病害~~虫~~と品種**

1. いもち病

　　品種：「たちすずか」「たちあやか」「つきあやか」「つきすずか」「つきことか」

これらの品種は抵抗性遺伝子を持つと推定されるため、栽培開始当初は発病しないが、ほ場抵抗性は弱い、もしくは不明であるため、抵抗性遺伝子打破系統の出現・蔓延により甚大な被害となることがある。基本防除を励行し、抵抗性遺伝子打破系統の出現を抑制するとともに、発病が見られた際は、速やかに普及指導機関に相談する。

②縞葉枯病

　　品種：「たちすずか」「たちあやか」

　　　抵抗性が無いので、常発地帯では作付を行わない。